



メール処理方式の廃止

2019年8月8日

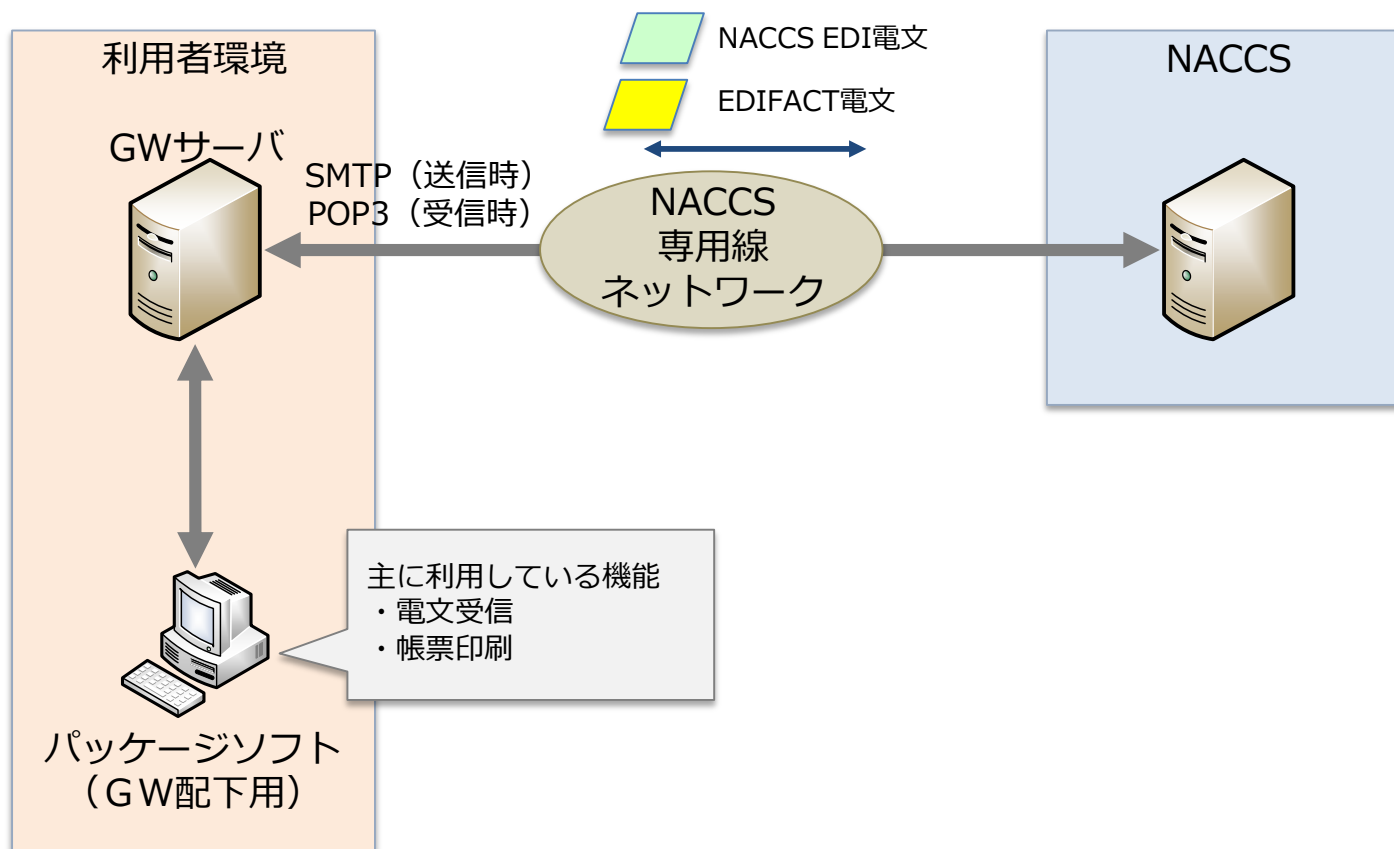
輸出入・港湾関連情報処理センター株式会社

第7次NACCSにおいては、メール処理方式の廃止の可能性を検討する。

区 分	概 要	備 考
1. 個別検討事項	<ul style="list-style-type: none">メール処理方式の廃止による利用者への影響	
2. 現行仕様	<ul style="list-style-type: none">第6次NACCSにおいては、接続方式としてメール処理方式を提供しており、NACCS EDI電文の他に、EDIFACT電文通信も行っている。パッケージソフト（メール処理方式）も提供しているが、原則廃止としており、GW配下のみ利用可能としている。	
3. 見直しの経緯 （利用者の要望等）	<ul style="list-style-type: none">将来的な接続処理方式の集約およびパッケージソフトの開発コスト削減に向けて、メール処理方式の廃止を第7次NACCSで検討したい。	
4. 次期仕様	<ul style="list-style-type: none">メール処理方式を廃止する。	
5. その他	<ul style="list-style-type: none">メール処理方式を廃止する場合は、新たなEDIFACT通信ができる接続方法を検討する必要がある。	

第6次NACCSにおけるメール処理方式の接続構成は、以下の通りである。

■現在のメール処理方式の接続構成



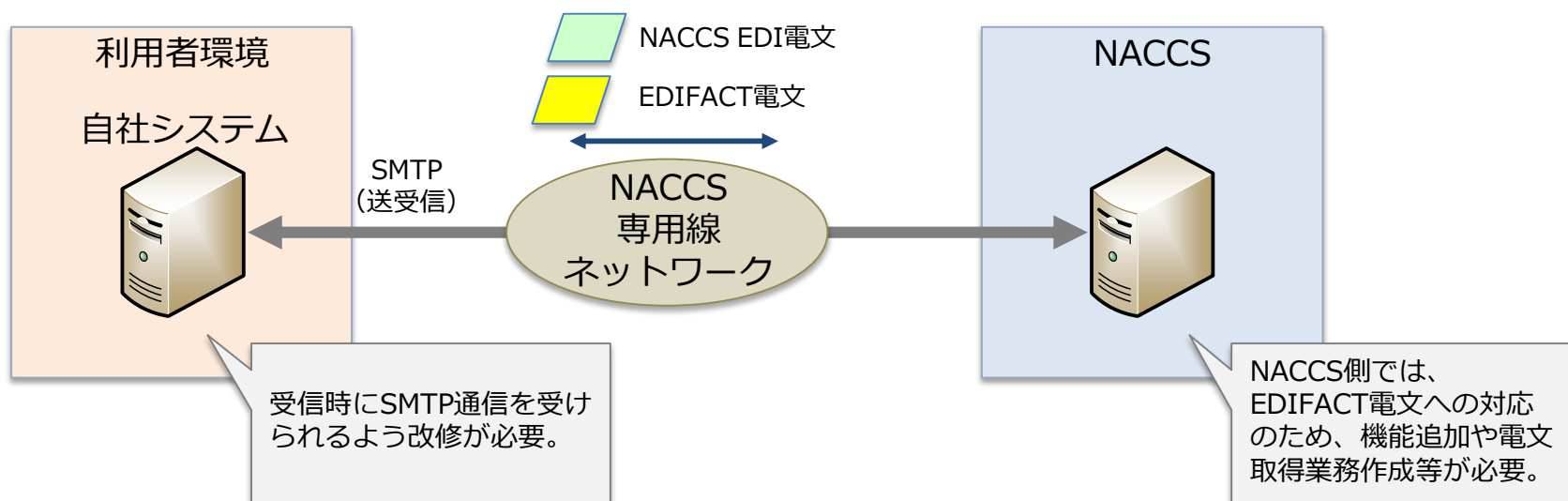
第7次NACCSにおいては、メール処理方式の廃止の可能性を検討する。廃止後の代替接続方式として、以下を検討したい。

メール処理方式廃止後の代替接続方式

■SMTP双方向への変更

メール処理方式では、送信時はSMTP通信、受信時はPOP通信であったため、SMTP双方向へ変更する場合は、受信時にSMTP通信を受けられるよう、自社システム側で改修が必要となります。

※第6次NACCSでは、メール処理方式のみがEDIFACT電文へ対応しているため、メール処理方式を廃止する際には、SMTP双方向でのEDIFACT電文への対応を検討する予定です。

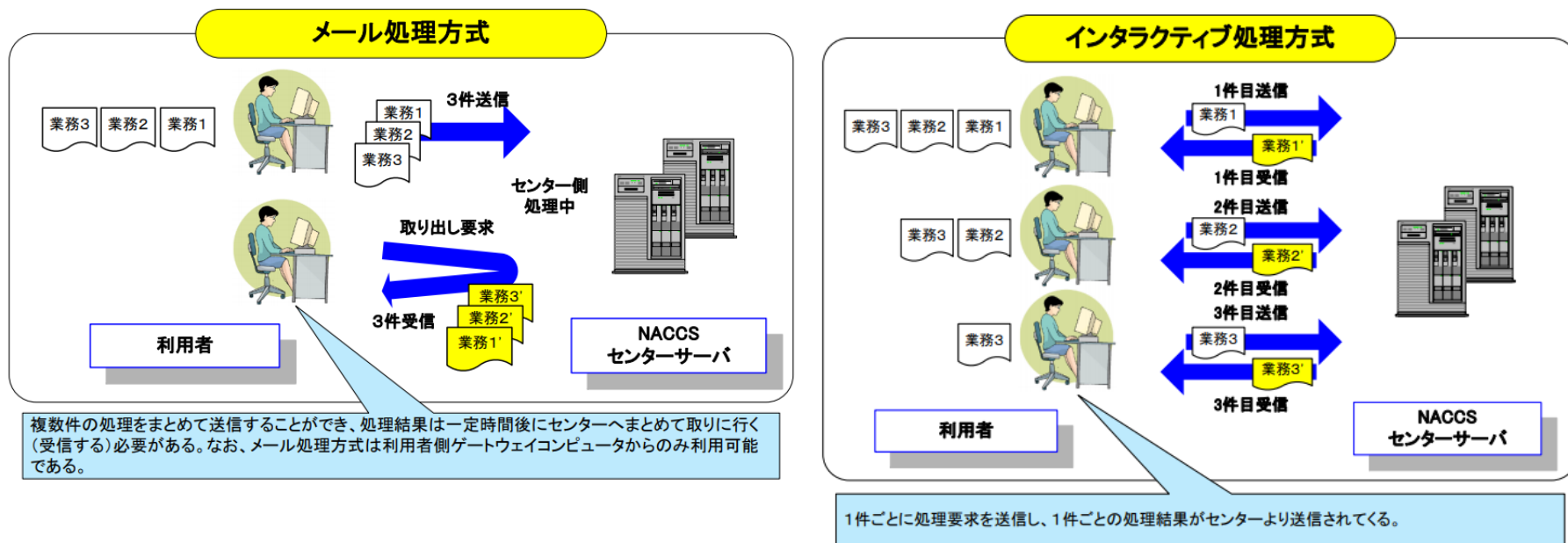


4. メール処理方式廃止後の懸念事項

メール処理方式廃止後の代替接続方式を採用する際の懸念事項は、以下の通りである。

【懸念事項】

- 異なる処理方式（例：SMTP双方向）への移行に伴い、異なる処理方式のEDI仕様書に基づいて、自社システムの開発が必要となる。
- 異なる処理方式に変更となるため、複数の業務をまとめて送信できなくなる。（複数件の処理をまとめて送信できるのは、メール処理方式のみ）



第6次NACCS EDI仕様書 1.データ送受信処理方式 1-1-1より抜粋

上記図の通り、異なる処理方式へ変更すると、左図のように、複数の業務をまとめて送信ができなくなり、右図のように、業務を1件ずつ送受信する仕組みとなる。（マルチB/L電文については、引き続き利用が可能。）